

整理番号:EP210601

発送番号:397715 発送日:平成16年11月 2日

1

拒絶理由通知書

特許出願の番号	平成11年 特許願 第272079号
起案日	平成16年10月27日
特許庁審査官	濱本 穎広 9509 2G00
特許出願人代理人	井上 一(外 2名)様
適用条文	第29条第2項、第36条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項 1～6
- ・引用文献等 1～2
- ・備考

引用文献1には、マスターICとスレーブICからなるドライバを有する液晶駆動回路が記載されており、引用文献2の第2頁右上欄第20行～第3頁左上欄第3行、第9頁左上欄第20行～右上欄第4行には、マスターICとスレーブI Cとの同期ずれを遅延回路によりなくすこと及びこの構成が液晶ディスプレイにも適用してもよいことが記載されている。引用文献1～2に記載された発明は、いずれもマスター・スレーブ型駆動回路であり、引用文献1に記載された発明においても同期ずれが生じる課題があることは明らかであるから、前記課題を解決するために、引用文献2に記載された構成を、引用文献1に記載された発明に適用することは、当業者であれば容易に想到し得ることである。そして、遅延回路をマスターの外部内部のいずれに設けるかは当業者が適宜になし得ることであり、外部に設ければ表示制御信号を、外部配線を介して入力することになることは明らかである。

- ・請求項 7～10
- ・引用文献等 1～3
- ・備考

引用文献3には、マスター モードとスレーブ モードを選択信号で切り換えることにより、マスターにもスレーブにもなりえる駆動回路が記載されている。そして、入出力兼用の端子を設けることは周知のものである。

- ・請求項 11～12
- ・引用文献等 1～3
- ・備考

信号選択回路を必要に応じ設けること、信号選択回路を論理積回路、論理和回路で構成することは周知である。

引 用 文 献 等 一 覧

1. 特開平11-15451号公報
2. 特開昭63-266486号公報
3. 特開昭53-25318号公報

2. この出願は、特許請求の範囲の記載が下記の点で、特許法第36条第6項に規定する要件を満たしていない。

記

(1) 請求項7の第13～14行、請求項9の第13～14行の記載に「前記入出力端子」、「前記入力端子」とあるが、これらの記載の前に「入出力端子」、「入力端子」なる記載がなく、「前記」という記載が何を意味するのか明らかでない。

(2) 請求項12の第2行の記載に「前記選択回路」とあるが、この記載の前及び請求項12が直接又は間接的に引用する請求項7～11には、「選択回路」という記載がなく、「前記」という記載が何を意味するのか明らかでない。(「前記信号選択回路」ではないのか?)

整理番号:EP210601 発送番号:397715 発送日:平成16年11月 2日 3/E

この拒絶理由通知書の内容に問い合わせがある場合、または、この案件について面接を希望する場合は、特許審査第一部ナノ物理 濱本 穎広、TEL 03-3581-1101 内3225、FAX 03-3592-8858 までご連絡ください。

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C 第 7 版 G 0 9 G 3 / 0 0 - 5 / 4 2
G 0 2 F 1 / 1 3 3

・先行技術文献 なし

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。